



# 千代田新水路

大正

昭和

## 農業・洪水・環境・観光で貢献

昭和10年に設置された千代田堰堤の高さは、十勝川の計画河床高（川底の高さ）より5.6mも高くなっています。また、低水路も左側に大きく湾曲しており、洪水時のスムーズな流れを阻害し、洪水を安全に流すことができません。一方で、農業取水施設やサケ捕獲場、観光資源としても重要な役割を果たしています。

地域の財産である千代田堰堤を残すとともに流下能力不足を解消し、治水安全度を向上させるため、右岸側の高水敷を掘削して、平成19年に千代田新水路が完成しました。



整備前（平成3年）

### 分流堰

上流部にある分流堰は、通常時はゲートを閉めて現低水路に水を流し、洪水時にはゲートを開けて新水路に水を流し、洪水を安全に流下させることができます。



分流堰ゲート

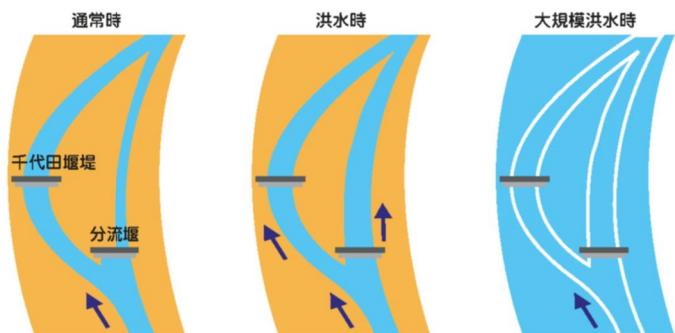
### 魚道施設

遊泳力が強い大～中型魚類が主に利用する階段式と遊泳力が弱い小型の魚類が利用する水路式の2種類の魚道施設が設置され、併設されている魚道観察室（とろーど）は観光地として多くの方が訪れています。



平成

### 千代田新水路のイメージ



現在の千代田堰堤付近

### 新水路での実験

実験水路は分流堰の4門のゲートのうち1門を利用してつくられており、低水路幅30m、堤防高4mの断面で、長さ1,300m、河床勾配約1/500となっています。実験水路の上流端のゲートで流量をコントロールすることができ、実物大での実験が可能です。今まで縮尺模型実験では解明できなかった現象や実河川では観測が非常に困難であった現象などについて、この千代田実験水路を用いることで解明することができるようになります。



令和4年度実験の様子

令和

100年